

令和2年度 全県研究大会のまとめ

研究調査部

1 実施報告

(1) 開催地区・実施日・開催校（教科等）・授業者

・新型コロナウイルス感染症への対応のため半日開催とした。

開催地区	実施日	開催校（教科等）・授業者		
中信：松本市	11 / 12（木）	中山小（社会）	伊藤 拓	教諭
		島内小（外国語活動）	三村 小百合	教諭
		波田中（保健体育）	伊藤 駿太郎	教諭
		菅野中（特別活動）	篠田 悠里絵	教諭
東北信A ：長野上水内	11 / 17（火）	城山小（理科）	佐々木 直人	教諭
		柳原小（特別支援教育）	中村 文洋	教諭
		更北中（国語）	手塚 佳寿	教諭
		広徳中（道徳）	望月 省吾	教諭
＊長野市内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、主催者、助言者、校内教職員のみでの研究会（外部参加者は なし）として実施				
東北信B ：上高井	11 / 19（木）	日滝小（生活）	加藤 光	教諭
		高山小（国語）	小林 詩織	教諭
		高山中（総合的な学習の時間）	江守 博光	教諭
南信：上伊那	11 / 25（水）	箕輪南小（体育）	玉置 龍	教諭
		中川東小（算数）	宇佐見 和也	教諭
		箕輪中（理科）	土屋 克明	教諭
		東中（総合的な学習の時間）	熊谷 未櫻	教諭

(2) 参加人数（延べ人数）

一般：177名 委員・該当校関係者：388名 信教関係：68名 計633名

(3) 研究推進に関わっての成果と課題（運営面も含む） ＊→：参加者、委員からの感想

①研究の立場

- ・授業者の自己課題の解決に向けて、学校、研究調査委員が共に研究を進めるというスタンスで取り組むことは継続して行った。本年度は、4月5月の研究調査委員会が開けずメールによる情報提供となった。また、学校が正常な状態で再開するまでに時間がかかったこと、6月～7月の事前研究が実質のスタートであったことなどの状況から、研究に関わる共通認識が不十分なところがあった。
- ・自己課題の内容を明確にすることがスタートであり、それが据わってくると具体的な解決の道筋が見えてくる。学習指導案もその道筋が見えるように工夫する必要がある。
→授業者の自己課題を第一に考える手法は、授業者にとって実りのあるものだと思います。自分の授業の課題を見つめる時間はとても有意義な時間でした。課題を見つけそ

のために授業をどう構築していくか考えることは、全ての教科指導につながる部分がありました。

→授業者の「自己課題」解決に向けた取組を大切に、同僚性を発揮して共に学び合う場であるという基本的なスタンスは継続していきたい。

→わかりやすい指導案ではあったが、負担軽減を考えて指導案は簡略化したい。

②「Withコロナにおける新たな研究会の提案」 * 8/27 の理事会・常任委員会での実施判断を受けて

＜開催にあたって＞

○事前に録画した授業VTRをもとにした授業研究会を行う

○午後半日での開催とする（体験工房の中止、講師への原稿依頼に替える）

○募集範囲を開催都市の20人を上限とする 他都市からの希望は教育会長間で調整する

* 感染予防の働きかけを行う（マスクの着用、手指の消毒、検温、会場の除菌など）

・新型コロナウイルス感染症への対応をふまえて内容を大きく変更した。現在置かれている状況が緩和されても、これからの研究会のあり方を考えることは必要である。

[授業VTRに関わって]

・VTRについては、急遽試行となり初めての試みでもあったことから、技術的なことより「実際の授業を生で参観したい」という思いがハードルを高くしていた。実際、どのようになるかわからないところがあり録画から編集と各チームには負担がかかった。しかし、各校とも工夫して取り組んでいただき、授業の様子や授業者の自己課題解決のための手だてが分かるように作成していただいたことに感謝申し上げたい。

・VTRをもとにした授業研究会は、VTRの見せ方や小グループによる討議など、教科等の特性もふまえて討議を行った。参加者の視点が焦点化して同じステージ上で討議できるよさがあった。しかし、全体の授業の流れがとらえにくい、授業者や子どもの発言が聞きとれない、などの改善点は指摘された。討議の時間が短いという意見もあった。VTRの編集に時間がかかり苦労したという意見もあった。このような形の研究会の持ち方のよさと課題（改善点）を洗い出して学校現場に発信していく。

→VTRで実施したことで、研究授業でのワークシートに子どもが何を書いたか全員分まとめていただき、前時からの考えの変化が見ることができわかりやすかったです。

全体の様子は、実際に見た方がわかりやすいと思います。会場校の負担軽減も考える。

→係の先生が一人一人の発言をボードにおこしていただき、それが手がかりとなって授業を見ることができました。

→VTRの利用方法については、教科によって有効かそうでないか違いがあると思います。何が有効であり何が有効ではなかったのか是非示してほしいと思います。

→参加者が実際の授業を見て学ぶ方向がよい。

[参加者の範囲に関わって]

・本年度、他の研究会が中止となったことも相まって、初任研対象者の校外研修としての参加が多かった。一概には言えないが、研究会の深まりという点では難しいところがあった。

2 次年度の全県研究大会について（まとめ）

本年度は、新型コロナウイルス感染症への対応から計画どおりに進まないところが多かった。

しかし、それをマイナスとだけとらえずに「信教全県研究大会のあり方を見直す」機会としてとらえたい。研究調査委員の先生方からいただいた意見を参考に、次年度は、これまでの研究大会の形をふまえながら、全県研究大会のあり方を検討していきたい。